

# フアーウェイ 東日本大震災 IT 支援プロジェクト

July 2021 Vol.1

## あいさつ

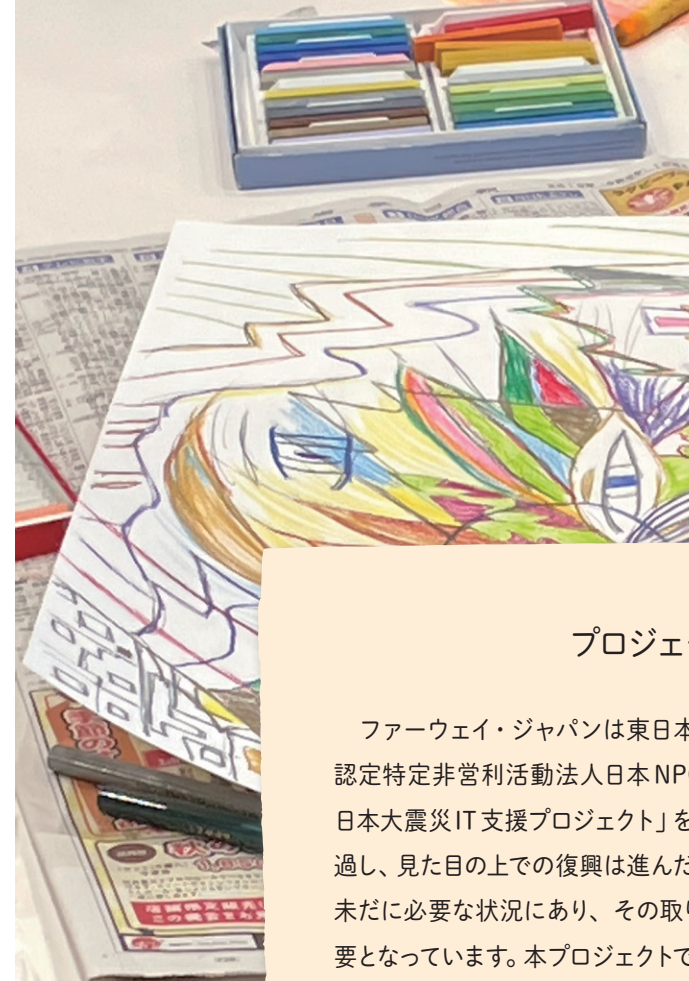
華為技術日本株式会社（以下、ファーウェイ・ジャパン）は2005年に設立し、今年で16年目に入ります。日本においても地域に根差した企業、社会を構成する一員であることを意識し、「良き企業市民」としての社会への責務を果たしていきます。私たちの社会貢献活動の重点分野は「グローバル人材育成」「災害復興」「環境保全」の3つです。

10年前の3.11東日本大震災では、震災直後、迷わず現地にエンジニアを送り、通信基地局の復旧に努めました。このことは、その後の人命救助、支援物資の供給などに大いに役立ちました。なぜこのような動きができたのかといえば、わたしたちが通信インフラ提供の責務を負っているということ、お客様が支援を待っているということ、復旧しなければその後の救援活動が展開できないということを強く認識していたからです。被災地では、現在もさまざまな支援活動が行われており、わたしたちは活動者をリスペクトしています。今回の助成プロジェクトは、その活動を弊社のIT機器・技術を活用して支援したいと企画したものです。今回の助成プロジェクトに留まらず、今後も復興に向けて前進を続ける被災地への継続的な支援を行っていきたいと思っています。

「未来をつなぐ」というサステナビリティのビジョンのもと、ファーウェイ・ジャパンはこれからもICTによる経済的な成長とサステナブルな社会の実現を目指し、日本のみなさまとともに「より“つながった”世界」の構築に尽力してまいります。

華為技術日本株式会社  
代表取締役会長

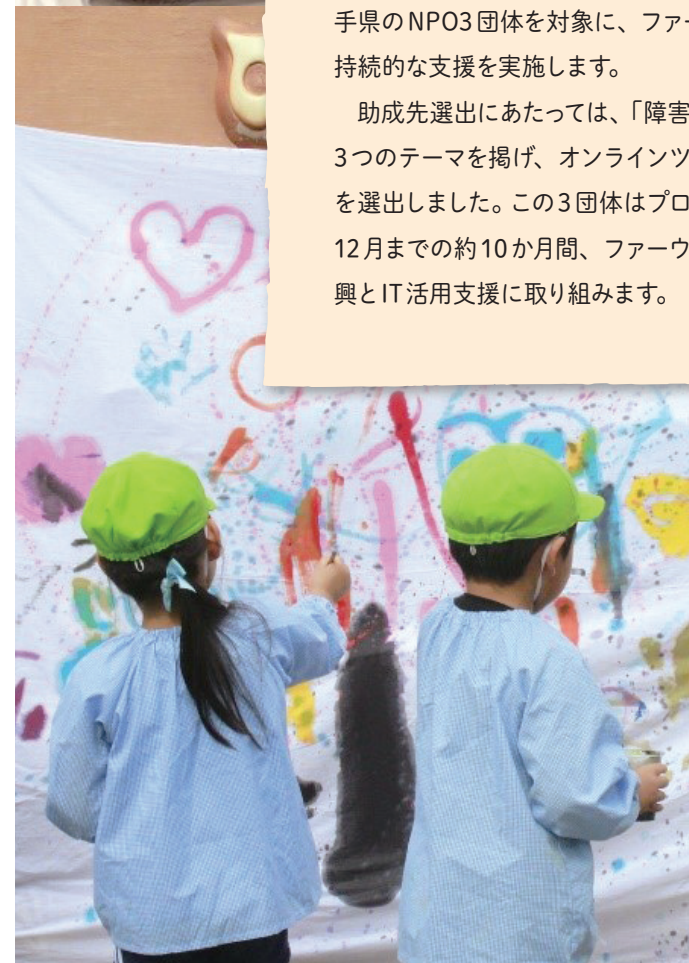
王 劍峰  
Jeff Wang



## プロジェクトの趣旨

ファーウェイ・ジャパンは東日本大震災から10年を迎える2021年、認定特定非営利活動法人日本NPOセンターと連携し「ファーウェイ東日本大震災IT支援プロジェクト」を立ち上げました。震災から10年が経過し、見た目の上での復興は進んだものの、被災者の生活面での支援は未だに必要な状況にあり、その取り組みを進めるNPOへの後押しが重要となっています。本プロジェクトでは被災者への支援を行う宮城県・岩手県のNPO3団体を対象に、ファーウェイ・ジャパンがITを活用した持続的な支援を実施します。

助成先選出にあたっては、「障害者」「子ども/若者」「NPO支援」の3つのテーマを掲げ、オンラインツールを使って先駆的に取り組む団体を選出しました。この3団体はプロジェクトを開始した2021年2月から12月までの約10か月間、ファーウェイ・ジャパンとともに被災地域の復興とIT活用支援に取り組めます。



## NPO法人エイブル・アート・ジャパン

### 生きる力を育てる「SOUP 芸術の学校」試行事業



コロナ禍で文化芸術活動やスポーツ活動に直接参加することができない、情報弱者（要支援者）となりオンラインでの学びの場にアクセスするのが困難になっている障がい児・者や支援者を対象に、生涯学習の場を提供する「スープノアカデミア」を実施。



#### オンラインで障がいのある人に学びの場をつくる

日本では、2014年に「障害者の権利に関する条約」を批准、2016年から「障害者差別解消法」が施行されました。しかし、地域生活や芸術文化・スポーツなどでの障がいのある人の社会参加の機会はいまだ少ないのが現状です。

私たちは、震災以降の東北でも、これらの障がいのある人をめぐる課題への取り組みを進めてきました。しかし、新型コロナウイルス感染症の蔓延によって、障がいのある人たちは学校や施設にさえ行きにくくなってしまい、社会とつながる場をますます失ってしまっています。

今回、この助成事業で提案した障がいのある人を核心にした生涯学習の場づくりによって、コロナ禍で社会的・文化的環境が失われた人たちだけでなく、従来は学びの場の参加者として認識されていなかった人たちにも、オンラインにより学びの体験を提供することができます。コロナ禍を逆境ととらえず、<いつでも、どこでも、誰でも>自由に豊かな学びの体験ができる環境づくりをめざします。



- 今後の予定  
7～10月「プログラム実施」(4回)  
11～12月「プログラムの検証とまとめ」(1回)

●団体情報  
特定非営利活動法人エイブル・アート・ジャパン 東北事務局  
〒980-0804 宮城県仙台市青葉区大町2-3-22 第五菊水ビル3階  
<http://soup.ableart.org>

## NPO法人底上げ

### ITスキルを活用した地域の担い手育成事業



震災後地元で活動したものの、進学などで地域との関係性が希薄化している若者を対象に、Webメディアを構築して地域のUターン先・就職先の情報提供を行う。この事業を行うことで、過去に投資した関係人口がUターンなどのかたちで地域に還元される仕組みづくりを目指す。NPO法人TEDIC、NPO法人きっかけ食堂の3団体で協働。



#### 地元を離れた若者がITスキルを活かして地元への貢献を目指す

震災以降、沿岸部で活動するNPOなどの団体は、「これからの人材を育てていかなければ」という思いを同じくしていました。しかし、それがうまくできている団体とそうでない団体があり、ヒアリングしてみると、以下のことがわかってきました。若者は、進学や就職などを機に地元を離れ、「活動に関わりたけれど関われない」と思っている人が多いこと。一方、団体は、目の前の活動に精一杯で、地元を離れた若者たちとまで関係を構築する余裕がないということです。ここをうまくつなぐフックが作ればと思い、若者たちがITスキルを身につけ、地元の団体の活動に貢献できるようになるためのプログラムを考えました。さらに、それをコンテンツとして配信することで、ノウハウを共有したり、Uターン先・留職先の情報提供やコミュニティ構築のためのWebメディアを作ることも企画しました。

それぞれのプログラムは、基本的にはオンラインで行うため、実際に地元に戻らなくても体験することができます。オンライン化は今後ますます進むと思われますが、離れていても地元貢献できる活動の事例も作っていただけらと思っています。



- 今後の予定  
団体内の困りごとリスト化と情報発信、7～10月研修会の開催(8回)、先進地現地視察(状況次第)、コンテンツ配信

●団体情報  
NPO法人底上げ  
〒988-0077 宮城県気仙沼市古町2-7-117  
<https://sokoage.org/>



## NPO法人アットマークリアス NPOサポートセンター

### NPOのためのICT支援プロジェクト

被災地域において今後も重要な役割を担うNPO等の事業・経営基盤を強化し、事業を円滑に進めるためのICTツールの導入・活用のサポートを行う。具体的にはNPO向けのICT活用セミナーやコンサルティングの実施、オンラインセミナーやWEB会議の開催支援を予定。



#### ITツール活用を伴走支援する

震災から10年。復興がある程度形になりつつある被災地ですが、まち（暮らし）を構成するのに重要な人と人のつながりは、まだまだ時間をかけて再構築しなければならない課題です。

しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大は、地域の課題を解決しようと頑張っているNPO等の活動にも重大な支障を来しました。

2020年6月から7月にかけて釜石、大船渡、陸前高田の3地域にある中間支援団体と市民活動支援センターが協働で行ったアンケートでは、支援センターにどのような支援を期待するかという項目で、「情報のサポートが欲しい」という回答が多く寄せられました。また、「オンラインでの活動がしたい」「そのための支援が欲しい」という回答も多く寄せられました。

NPO等が今後も起きうるであろう様々な社会変化に対応し、停滞させることなく活動や事業を継続するためには、ICTやオンラインツール等の活用・推進は必要不可欠となります。

本事業においては、IT活用・オンラインツール活用セミナーをはじめ、IT活用のための伴走支援（コンサルティング）等を通じて、NPO向けのICT基盤強化とITツール活用の推進を目的としています。



#### ●今後の予定

毎月、オンラインセミナー開催（セミナー開催と並行して伴走支援先の選定、随時コンサルティング、イベント開催サポート）

#### ●団体情報

NPO法人アットマークリアスNPOサポートセンター  
〒026-0021 岩手県釜石市只越町1-3-2  
<https://rias-iwate.net/>

## テーマに応じたIT活用で、更なる可能性が広がる

認定特定非営利活動法人日本NPOセンター

常務理事 田尻 佳史



東日本大震災から10年が経過し、見た目では復興したように見えますが、多くの人々の暮らしは未だ復興の途上です。逆に歳月の流れが世間の人々の被災地への関心を薄れさせ、今なお何らかの支援が必要であることすら伝わりにくくなってきています。そんな中、引き続き東日本大震災の被災地に思いを寄せ、新たな支援を始めていただいたことに、心より感謝しております。

この度、支援いただいている3団体は、震災直後から復旧・復興活動に取り組み、3団体それぞれが復興に必要となる活動テーマを見定めてこの10年にわたり活動を続けてきました。地域のさまざまな課題と向き合い、工夫を凝らした活動を今まで継続できたのは、多くの支援者の助けによるものでしたが、残念ながら時間の経過とともに支援者のかかわりが変化しつつあるのも現状です。

各団体紹介にあるように、IT活用による新たなチャレンジは、実施する3団体のみに成功を呼び込むだけでなく、他の地域や活動でも活用可能なものばかりです。コロナの蔓延により、人の移動が妨げられ、多くの団体が活動自体をも停滞せざるを得ない環境になっています。そんな多くの団体にも、今回のそれぞれの取り組みが伝播し、活用されることを願っています。



©イラスト

## 國分悠太さん (こくぶん・ゆうた)

雑誌を見ながら人物を描くほか、小さな文字やチューリップ、カモメなどのパターンを描くことも多い。毎日、昼休みに準備を行い制作。カバンの中にいつもペンを入れており、自宅に持ち帰り、作品の続きを描くこともある。歌が大好きで、いつもリュックの中にマイクを入れているほど。はまゆうでは、喫茶・食品加工・さをり織りに取り組んでいる。

資料提供：NPO法人エイブル・アート・ジャパン

認定特定非営利活動法人



日本NPOセンター

編集・発行：

認定特定非営利活動法人日本NPOセンター  
東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビル245  
TEL: 03-3510-0855 / FAX: 03-3510-0856  
URL: [www.jnpoc.ne.jp](http://www.jnpoc.ne.jp)  
発行日：2021年7月31日